

次 号 予 告

特集 対話型OR

新しいシステムズ・アプローチと対話型OR
 ——対話型ORの方法論的背景を眺めて
 ……………宮崎正史(広島女子商短期大学)
 対話型モデリング支援システム
 ……………中森義輝(甲南大学)
 火災判断ファジィエキスパートシステム
 ……………兼田真由美, 他(松下電工)
 飲食店チェーンにおける全員参加の利益計画
 ……………福谷修治(未来経営研究所)
 一貫製鉄所における対話型OR
 ……………金子雅彦(川崎製鉄)
 Creative OAをめざした技術業務支援システム
 ……………向井 勉(中電技術コンサルタント)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	高森 寛	青山学院大学
副委員長	高井 英造	三菱石油㈱
委 員	相沢りえ子	㈱構造計画研究所
	上野 哲郎	関東学園大学
	大村 雄史	住友商事㈱
	片山 隆仁	防衛庁
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	川野幸三郎	日本ユニカー㈱
	木嶋 恭一	東京工業大学
	新村 秀一	住商コンピューターサー ビス㈱
	町原 文明	日本電信電話㈱
	宮田 雅智	青山学院女子短期大学
	矢部 博	東京理科大学

編集後記 ●本号は国際分散投資というテーマで主として金融機関の方を中心に執筆していただきました。コーディネーターは、金融分野で豊富な経験をお持ちの金融システム研究所の岸本氏です。同氏の幅広い活動経験にもとづいて執筆者も、開発銀行、信託銀行、外資系証券会社、大学の研究者とバランスもよくとれているのではないかと思います。欲を言えば、外為専門銀行の東銀さんあたりに日本企業の海外進出やM&Aの報告、金融機関の不動産投資等のテーマもあってもよかったですのではないかと考えています。洩れた視点や執筆者は号を改めてとりあげていくように編集者一同努力したいと思います。

●読者もご存知のように、昨年までは金融機関を中心にどこまでもこの景気が続くものと考え、花見経済に酔いしれていました。今年はどう変わってトリプルデメリットのもと厳しい環境にあります。この時期にこそ本テーマを見直すのは時宜に適っているのではないのでしょうか。OR学会にとって久々のニューフェイスである金融

とORを、線香花火で終わらせるのではなく大事に大きく育てていく必要があると思います。

●さて、国際分散投資と関係して、日本企業による外国企業のM&Aもここ最近注目を集めています。製薬企業による白馬の騎士、製鉄業における米国製鉄業のリストラクチャリング、歴史の古い自動車産業の国際進出や提携等など、ここにきて日本の企業をとりまく環境も大きな国際化の流れにあるのではないのでしょうか。私のように歴史の浅いソフトウェア産業に属する者も、必要に迫られ米国のエキスパートシステム開発ツールの開発企業に資本参加し、東南アジアやヨーロッパにソフト輸出を考えているこの頃です。

●本誌は、国際化の流れの中で読者が失敗しないようなテーマ選定がこれから必要なのではないのでしょうか。そして、ORの素養を身につけたわれわれが良き国際人として世界に貢献することも意識していかなければならない時代のような気がします。(新村秀一)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成2年7月号 第35巻 第7号 通巻355号

代表者 岡 久雄

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
 東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
 電話 03-815-3351(代) FAX 03-815-3352 〒113

編集人 高森 寛

発行所 株式会社 日科技連出版社
 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご文注は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円,郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (546-1337), 日経弘報社 (563-2241) へ